

ぎのわんの
歴史・文化遺産を
歩く 其の17

「キャンプ瑞慶覧⑩」

はじめに 今月も

キャンプ瑞慶覧(西天岡住宅地区)で市教育委員会が八月にハウジングエリアの一部にて実施した試掘調査の成果を速報として紹介します。

試掘調査の内容 試掘調査は、表面踏査とは異なり、原則三十m間隔毎に四m四方の範囲を重機で掘削して、地層の堆積を含めて地下の文化財(遺跡)の有無を確認する調査で、これにより文化財(遺跡)の所在と大まかな範囲を知ることができます。

試掘調査の成果 約二十箇所での調査ですが、二十m程の石灰岩を一行に並べた石列や柱が立てられていたと考えられる穴の跡(遺構)が三箇所で確認されています。石列は、戦前(近世)江戸時代相当(頃)での土留めであると考えられます。穴の跡は二



土留めと考えられる石列



柱穴跡と考えられる遺構(○部分)



海軍病院移設予定地にて確認された掘立柱建物跡

問合せ：文化課 ☎89314430

箇所で確認されましたが、当時の人が使用した土器や陶磁器などの道具(遺物)が未確認であること、調査範囲が小規模であることから、明確に時代を特定することは困難です。しかし、隣接する海軍病院建設予定地の文化財調査では、グスク時代(約八〇〇年前)の住居跡や倉庫跡と考えられる建物跡が数多く確認されています。これらは、ほぼ等間隔に数十本の柱を長方形、または四〜九本の柱を方形に配置して造られた掘立柱建物跡とよばれるもので、竪穴式住居とは大きさも作り方も異なります。また、喜友名グスク付近、伊佐交差点一帯でも同様な掘立柱建物跡が確認されていることから、今回の試掘調査で確認された、柱が立てられていたと考えられる穴の跡は、グスク時代の掘立柱建物跡の一部である可能性もあり、今後時期を含め詳細な調査が必要とされます。

茶ぐわーゆんたく

129

良い正月は若水と共に

新しい年が明けました。

戦前の宜野湾では、旧暦の元旦は朝早くから集落の産泉で、若水を汲んでくることから始まりました。産泉は各集落の発祥に関わるものといわれ、人々の命を繋いだものとして崇拜されています。正月の若水以外に、子どもの誕生報告や健康祈願など、人生のあらゆる場面で拝まれた場所でもありました。

若水汲みの事を、安仁屋、嘉数では「若水迎え」と呼びました。我如古や嘉数以外の部落では、若水汲みは女の子の役目になっていたようです。汲んできた若水は、まず火の神に供え、霊前にはお茶湯を上げてから、顔や手足を洗って身を清めました。自宅に井戸を持っていた家でも、この日は産泉の水を汲み、井戸や水瓶、風呂水に入れました。子どものない家でも、近所や親戚の家の子ども達に頼んで、若水や若松を届けてもらっていました。霊前に重箱や花米などの供え物が準備されると、台所の火の神から霊前の順で拝みが始まり、新しい年の始まりを祈願するのです。

このように、若水は旧正月の元旦において欠かせないものでありましたが、それは

若水を飲むと健康、豊年、幸せが来るといふ言い伝えがあるからです。

上水道が発達した現在は、産泉等の湧水を生活用水として使用することが少なくなりました。しかし産泉は、今でも畑への水撒きや公園の噴水、又は農業用水に活用されており、人々の生活との繋がりは消えていません。

新たな年を迎えるために、若水に込めた昔の人々の願いが感じられるようです。



▲若水を汲んだとされる、我如古ヒージャーガー 1976(昭和51)年

『宜野湾市史』への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)
☎87009317